
会社説明資料

－ 2024年3月期 －

2024年6月

株式会社 **じもとホールディングス**

株式会社 **きらやか銀行** 株式会社 **仙台銀行**

目次

1. 2024年3月期グループ決算の状況

① 決算の概要	…	1
② 資金利益	…	2
③ 貸出金・預金	…	3
④ 有価証券	…	4
⑤ 役務取引等利益	…	6
⑥ 経費、経営効率化	…	7
⑦ 与信関係費用、金融再生法開示債権	…	8
⑧ 自己資本比率、ROE	…	10
⑨ 中期経営計画目標と実績	…	11
⑩ 2025年3月期 業績予想と配当予想	…	12

2. 中期経営計画の進捗状況

① 経営理念と目指す姿	…	13
② 中小企業支援	…	14
③ 業務変革（DX）	…	15
④ 経営管理	…	16
⑤ SBIグループとの主な連携状況	…	17
⑥ 抜本的な経営改善施策（きらやか銀行）	…	19

3. じもとグループのサステナビリティ

① サステナビリティ基本方針	…	20
② サステナビリティ投融資方針	…	21
③ 中小企業支援を通じたサステナビリティ	…	22
④ 主要課題への取組み	…	23
⑤ 人事戦略、投資	…	25
⑥ トピックス（きらやか銀行、仙台銀行）	…	29

1. 2024年3月期 グループ決算の状況

① 決算の概要 – きらやか銀行 与信関係費用と有価証券損失で 過去最大の赤字 –

- **経常収益**は、貸出金利息や役務取引等収益が増加したことなどから、前年同期比+507百万円の**37,942百万円**となりました。
- **経常利益**は、きらやか銀行において、取引先の経営支援方針の見直しにより与信関係費用が大幅に増加したほか、有価証券ポートフォリオ見直しのため多額の国債等債券償還損を計上したことから、前年同期比△18,031百万円の**△22,329百万円**となりました。
- **親会社株主に帰属する当期純利益**は、きらやか銀行において店舗等の減損損失を計上したことから、前年同期比△16,380百万円の**△23,462百万円**となりました。

(単位：百万円)

	連結（一部2行合算）		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比
経常収益	37,942	507	17,272	△128	15,118	418
業務粗利益	18,098	△8,529	6,170	△8,237	11,746	△301
資金利益	23,180	△143	11,873	△282	11,362	70
役務取引等利益	3,229	68	2,234	220	766	△93
その他業務利益	△8,311	△8,454	△7,936	△8,175	△381	△279
うち国債等債券損益 ※	△8,590	△8,375	△8,170	△8,149	△420	△225
経費（△）	22,258	△89	11,486	△72	10,213	133
コア業務純益 ※	4,807	△224	2,854	△14	1,953	△209
コア業務純益（除く投資信託解約損益） ※	4,678	△263	2,779	△89	1,898	△174
与信関係費用（△） ※	18,700	9,350	18,504	9,847	195	△497
株式等関係損益	734	357	276	153	446	245
経常利益	△22,329	△18,031	△23,778	△17,857	1,693	202
特別損益	△1,092	△582	△1,002	△544	△73	5
法人税等合計	36	△2,232	△352	△2,307	452	197
親会社株主に帰属する当期純利益	△23,462	△16,380	△24,428	△16,094	1,167	10

※きらやか銀行、仙台銀行の2行合算計数です。

② 資金利益 – 有価証券評価損の抑制を優先、有価証券利息配当金が減少 –

■貸出金利息は、前年同期比+3.7億円の223.5億円となりました。きらやか銀行は、消費者ローンが増加しましたが、中小企業向け貸出が減少したことから、前年同期比△0.1億円の113.7億円となりました。仙台銀行は、住宅ローンや中小企業向け貸出が増加し、前年同期比+3.9億円の109.7億円となりました。

■有価証券利息配当金は、両行が引き続き有価証券評価損の抑制を優先したことから、投資信託分配金が減少し、前年同期比△5.4億円の7.8億円となりました。

(単位：億円、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比
資金利益	232.3	△2.1	118.7	△2.8	113.6	0.7
貸出金利息	223.5	3.7	113.7	△0.1	109.7	3.9
有価証券利息配当金	7.8	△5.4	5.0	△2.1	2.7	△3.2
預金利息 ※	2.0	0.5	1.4	0.5	0.5	0.0
平均残高						
貸出金平均残高	18,873	166	9,706	△109	9,166	276
有価証券平均残高	5,222	△170	2,338	△54	2,884	△116
預金平均残高 ※	24,640	△512	12,322	△437	12,317	△75
利回り						
貸出金利回	1.19	0.01	1.18	0.01	1.19	0.01
有価証券利回	0.15	△0.09	0.21	△0.09	0.09	△0.11
預金利回 ※	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00

※預金には、譲渡性預金も含まれます。

③ 貸出金・預金 – 消費者ローンが大幅増、中小企業向け貸出も増加 –

- 2行合算の**貸出金残高**は、地元中小企業へのスピーディな資金繰り支援、仙台地区を中心とした住宅ローン需要へ対応し、前年同月末比+335億円の**1兆9,187億円**となりました。
- きらやか銀行は、消費者ローンおよび地方公共団体向け貸出が増加したことから、前年同月比+10億円の9,829億円となりました。
仙台銀行は、中小企業向け貸出が増加したほか、住宅ローン需要に積極的に対応したことにより、過去最高の9,358億円となりました。
- 当社グループの**預金残高**は、前年同月末比△350億円の**2兆4,530億円**となりました。

(単位：億円)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2024年3月末	前年同月末比	2024年3月末	前年同月末比	2024年3月末	前年同月末比
貸出金残高	19,187	335	9,829	10	9,358	325
中小企業向け貸出	10,933	36	6,009	△50	4,924	87
消費者ローン	6,113	408	2,501	74	3,612	333
うち住宅ローン	5,611	305	2,285	△4	3,325	309
地方公共団体向け貸出	922	39	302	75	619	△35
預金残高（譲渡性預金含む）	24,530	△350	12,300	△470	12,229	119
個人預金	15,600	△301	8,113	△308	7,487	6
法人預金	6,782	39	4,026	△15	2,755	55
公金預金	2,109	64	145	9	1,964	55

④ 有価証券 – きらやか銀行 再投資に向けて一部有価証券を売却 –

- 2行合算の有価証券残高は、前年同月末比△1,473億円の3,509億円となりました。
- きらやか銀行においては、前年同月末比△1,271億円となりました。金融市場の動向を踏まえ、従来と比べて安定的に収益を獲得できる市場環境となることが見込まれたことから、有価証券の一部を売却して手元資金を捻出し、より安全性の高い運用を通じて収益力の改善を図ることにしたものです。これにより有価証券関係損失81億円を計上しました。
- その他有価証券の評価損益は、上記の売却の結果、前年同月末比87億円改善し△223億円となりました。引き続き、SBIグループと連携し、運用によって生み出される利益を充当することなどにより、評価損の中長期的な解消に取り組んでまいります。

(単位：億円)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2024年3月末	前年同月末比	2024年3月末	前年同月末比	2024年3月末	前年同月末比
有価証券残高	3,509	△1,473	936	△1,271	2,572	△201
国債	51	19	–	–	51	19
地方債	362	△67	–	△72	362	5
社債	531	△216	178	△232	353	15
株式	92	6	66	1	26	5
その他証券（海外債券：国債・地方債等）	2,469	△1,216	692	△968	1,777	△247
その他有価証券の評価損益	△223	87	△96	79	△126	8
株式	8	5	2	△0	6	5
債券	△5	4	△0	7	△4	△2
その他	△227	78	△98	72	△128	5

④ 有価証券 – きらやか銀行 有価証券関係損失を計上、評価損は改善 –

きらやか銀行 2024年3月期 有価証券関係損益の要因

(単位：億円)

	当初計画	2024年3月期	増減
有価証券関係損益	–	△78	△78
株式等売却損益	–	2	2
有価証券ポートフォリオ、評価損改善	–	△81	△81

きらやか銀行 その他有価証券評価損益

	2023年3月期	2024年3月期	増減
その他有価証券評価損益	△176	△96	79

⑤ 役務取引等利益 – 投資信託販売手数料、SBIマネープラザ手数料が増加 –

- 2行合算の役務取引等利益は、預かり資産手数料の増加により、前年同期比+126百万円の**3,000百万円**となりました。
- 預かり資産手数料は、投資信託販売手数料、SBIマネープラザ手数料、生命保険販売手数料が、それぞれ増加となりました。
- 法人向け手数料は、きらやか銀行の企業向け定額サービス（福利厚生）の見直しなどにより、関連手数料が減少しています。

(単位：百万円、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比
役務取引等利益	3,000	126	2,234	220	766	△93
役務取引等収益	6,534	210	3,461	46	3,072	163
受入為替手数料	1,400	△45	769	△28	630	△16
預かり資産手数料	1,606	110	681	41	924	69
（うち 投資信託販売手数料）	165	65	67	36	98	29
（うち SBIマネープラザ手数料）	159	23	70	18	89	4
（うち 生命保険販売手数料）	1,193	18	543	△13	650	32
法人向け手数料	813	△14	488	△78	324	64
（うち 私募債発行手数料）	123	1	92	10	31	△9
（うち 業務提携手数料）	203	△31	56	△41	147	10
（うち 定額サービス手数料）	392	△44	340	△47	52	3
その他	2,714	159	1,521	112	1,192	46
役務取引等費用	3,534	83	1,227	△173	2,306	257
支払為替手数料	343	5	242	6	101	△1
個人ローン保証料	1,542	35	345	△8	1,197	44
その他（住宅ローン団体生命保険料等）	1,647	43	639	△171	1,008	214

⑥ 経費、経営効率化 – 「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」 –

- 当社グループは、経営効率化に向けて「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」を一体で推進しております。2行合算の経費は、人件費が減少しましたが、物件費および税金が増加し、**前年同期比+60百万円**の21,700百万円となりました。
- 「店舗戦略」については、両行が店舗内店舗方式（ブランチ・イン・ブランチ）による統廃合を進め、当期は9カ店を実施しています。両行合算の実質店舗数は87カ店となっております。
- 「人員戦略」については、「店舗戦略」や「業務効率化・DX」による創出人員を営業担当へ再配置しております。一方で、全体の人員数は両行合算で前年同期比△84名となりました。これにより人件費は、前年同期比△309百万円となっております。
- コアOHRは、経費が増加する一方で、有価証券利息配当金の減少等により資金利益が減少したことにより、前年同期比0.73ポイント上昇し、81.86%となりました。

(単位：百万円、店舗、人、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比
経費	21,700	60	11,486	△72	10,213	133
人件費	10,230	△309	5,294	△290	4,935	△18
物件費	9,532	264	5,180	141	4,352	122
税金	1,937	105	1,011	75	925	29
店舗数 (ブランチ・イン・ブランチ形式での実質店舗数)	87	△9	40	△8	47	△1
人員数	1,342	△84	674	△60	668	△24
コアOHR	81.86	0.73	80.09	△0.02	83.94	1.61

与信関係費用、金融再生法開示債権 – きらやか銀行 引当金を前倒し計上 –

- 2行合算の与信関係費用は、前年同期比+9,350百万円の18,700百万円となりました。きらやか銀行において取引先への経営支援方針を見直し、コロナ特例公的資金の経営強化計画において、当初10年間で計上予定であった引当金を前倒しで計上したことが要因であります。
- 金融再生法開示債権残高は、前年同期比+25,757百万円の98,588百万円。不良債権比率は、5.04%となりました。

(単位：百万円、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比
与信関係費用	18,700	9,350	18,504	9,847	195	△497
内一般貸倒引当金繰入額	2,257	2,389	2,257	1,861	-	528
内個別貸倒引当金繰入額	15,122	6,195	15,122	7,290	-	△1,095
金融再生法開示債権残高	98,588	25,757	66,530	24,003	32,058	1,753
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	21,955	14,166	19,827	13,903	2,128	262
危険債権	72,934	13,095	46,313	11,529	26,621	1,566
要管理債権	3,697	△1,504	389	△1,429	3,308	△75
不良債権比率	5.04	1.26	6.58	2.37	3.38	0.07

(単位：百万円、%)

	2行合算			きらやか銀行			仙台銀行		
	債権額	保全額	保全率	債権額	保全額	保全率	債権額	保全額	保全率
金融再生法開示債権の保全	98,588	85,719	86.94	66,530	55,605	83.57	32,058	30,114	93.93
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	21,955	21,955	100.00	19,827	19,827	100.00	2,128	2,128	100.00
危険債権	72,934	61,542	84.37	46,313	35,676	77.03	26,621	25,865	97.16
要管理債権	3,697	2,221	60.07	389	101	26.11	3,308	2,119	64.07

⑦ 与信関係費用 – きらやか銀行 取引先の実態を踏まえ、経営支援方針を見直し –

- きらやか銀行は、コロナ禍の収束後も経営改善が進まない取引先の実態把握に踏み込み、これまでの経営支援方針を見直しました。これに伴い、当初、再生支援費用として10年間、累計144億円を計画していたうち、141億円を前倒しで計上しました。
- 特定の再生支援先へ引当金を計上することに併せて、貸出金全体に対する引当水準も引き上げており、33億円を計上いたしました。
- 以上により、きらやか銀行の通期の与信関係費用は、当初計画を大幅に上回る185億円を計上するに至りました。

きらやか銀行 与信関係費用の要因

(単位：億円)

	当初計画	2024年3月期	増減
与信関係費用	22	185	163
地元企業の再生支援	12	144	132
再生支援費用の前倒計上 ※	–	141	–
支援先の法的整理等	–	3	–
引当水準の引上げ・突発経営破たん	10	41	31
貸出金全体の引当水準引上げ	–	33	–
突発的な経営破たん等	–	4	–
その他	–	4	–

※再生支援費用の前倒計上内訳

取引先の状況	引当処理／今後の支援	引当額
・財務状況が悪化したまま、経営改善の見込みがたたない大口与信先	・引当金を全額計上 ・会社整理、廃業をサポート	60億円
・キャッシュフローを確保しているが、事業再編等が必要な大口与信先	・引当金を計上 ・事業一部売却、再編を支援	80億円
	合計	141億円

⑧ 自己資本比率、ROE - 連結自己資本比率 7.62% -

- 連結自己資本比率は、前年同月末比0.05ポイント低下し、**7.62%**となりました。2023年9月にコロナ特例公的資金180億円、2023年12月にSBIグループ追加出資19億円を新たに受入れ、きらやか銀行の自己資本に充当しましたが、同銀行の大幅赤字決算が影響したものです。
- ROEは、赤字決算により、当期純利益ベースで前年同期比△16.85ポイントの△23.86%となりました。

(単位：百万円、%)

	連結		きらやか銀行 (単体)		仙台銀行 (単体)	
	2024年3月末	前年同月末比	2024年3月末	前年同月末比	2024年3月末	前年同月末比
自己資本	106,150	△824	54,090	△1,473	53,062	818
リスク・アセット等	1,392,521	△495	699,034	△25,982	688,345	28,310
自己資本比率	7.62	△0.05	7.73	0.07	7.70	△0.21

(単位：%)

	2行合算		きらやか銀行 (単体)		仙台銀行 (単体)	
	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比	2024年3月期	前年同期比
ROE (業務純益ベース)	△6.19	△11.02	△17.65	△22.66	2.80	△1.87
ROE (当期純利益ベース)	△23.86	△16.85	△56.93	△39.88	2.13	△0.03

⑨ 中期経営計画目標と実績 – きらやか銀行 外部人材を招き、経営再建を目指す –

- 当社グループは、きらやか銀行の与信関係費用や有価証券関係損失の計上により、グループ中期経営計画（2021年4月～2024年3月）に対して乖離が生じております。
- 当社グループは、今般の赤字原因である、きらやか銀行の企業支援、貸出審査、有価証券運用の改善に向けて、同行に外部人材を招くなど再建策を実施します。これにより同行の早期の黒字回復、グループ復配、公的資金返済に向けた剰余金の積上げを進めてまいります。
- きらやか銀行の抜本的な経営改善施策につきましてはP.19をご覧ください。

(単位：億円、%)

	連結		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2024年3月期 計画	2024年3月期 実績	2024年3月期 計画	2024年3月期 実績	2024年3月期 計画	2024年3月期 実績
コア業務純益 ※1	71	44	38	27	36	18
経常利益	59	△223	26	△237	31	16
親会社株主に帰属する当期純利益	45	△234	22	△244	23	11
貸出金平残	18,936	18,873	10,031	9,706	8,905	9,166
預金平残	25,151	24,640	12,754	12,322	12,396	12,317
自己資本比率	8.2程度	7.62	8.4程度	7.73	8.0程度	7.70
コアOHR ※2	75.8	83.3	75.1	80.0	73.6	83.9
ROE	3.3	△23.8	3.2	△56.9	3.9	2.1
顧客向けサービス業務利益 (2行合算) ※3	28	40	14	23	14	17

※1、2 投資信託解約益等（投資信託解約益＋債権売却益）を除く。

※3 顧客向けサービス業務利益 = 貸出金残高 × 預貸金利回差 + 役務取引等利益 - 営業経費。2行合算としております。

⑩ 2025年3月期 業績予想と配当予想

- 連結業績予想（2025年3月期）は、経常利益15億円、親会社株主に帰属する当期純利益9億円を見込んでおります。
- 年間配当金（2025年3月期）は、現時点において未定としております。国との公的資金の返済に関わる協議等を踏まえながら、今後、決定次第、速やかに公表してまいります。
- なお、年間配当水準は当社連結の通期業績に連動して予想しますことから、今後、配当予想を開示する場合は期末配当に一本化する予定でございます。

<業績予想>

(単位：百万円)

	連結		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2025年3月期 予想	2024年3月期 実績（参考）	2025年3月期 予想	2024年3月期 実績（参考）	2025年3月期 予想	2024年3月期 実績（参考）
経常利益	1,500	△22,329	200	△23,778	1,300	1,693
親会社株主に帰属する当期純利益	900	△23,462	100	△24,428	800	1,167

<普通株式・配当予想>

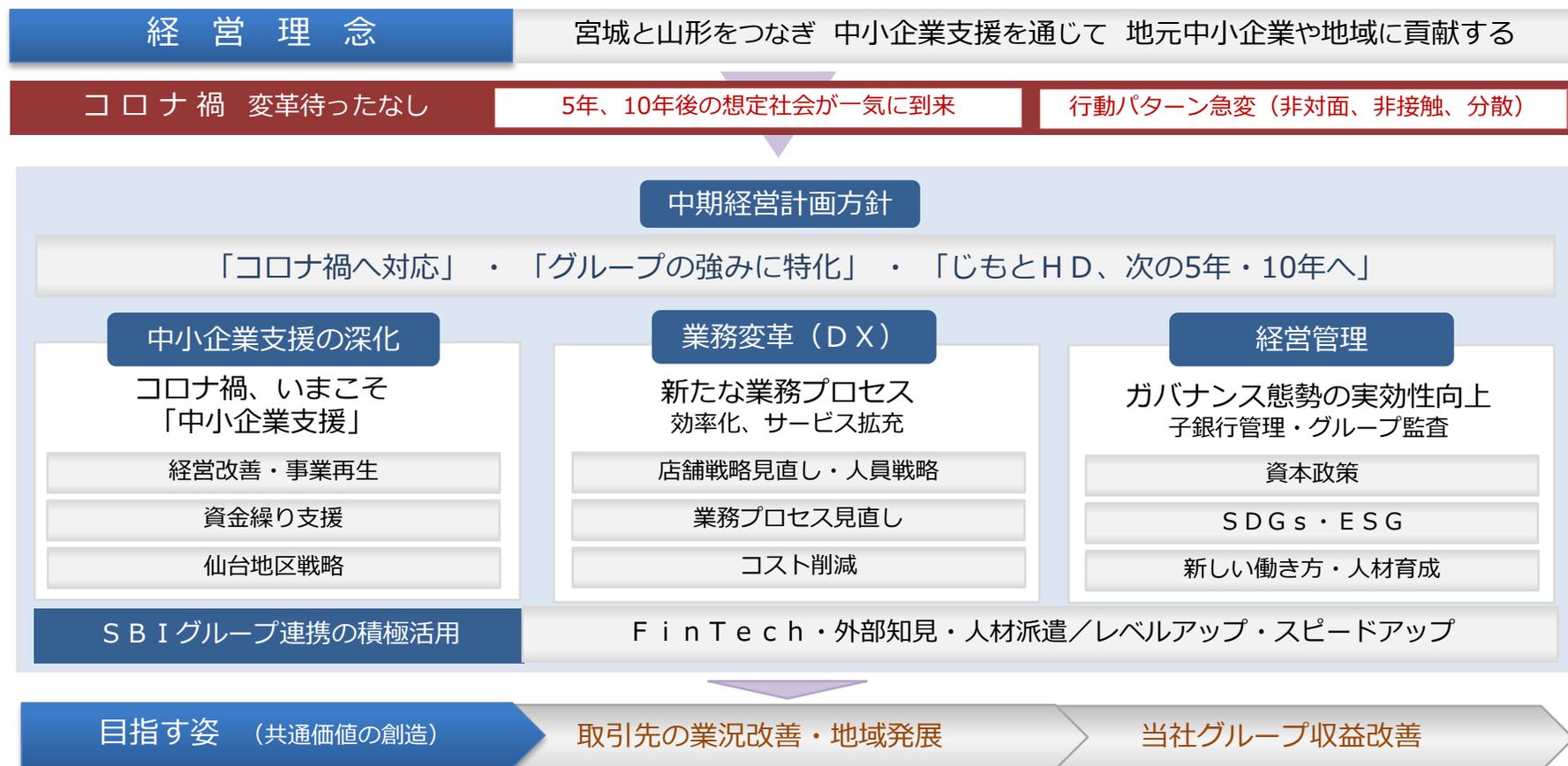
(単位：円、1株あたり)

	中間	期末	年間
2025年3月期	0円00銭	未定	未定
2024年3月期（参考）	0円00銭	0円00銭	0円00銭

2. 中期経営計画の進捗状況

① 経営理念と目指す姿

- 当社グループの経営理念は、「宮城と山形をつなぎ、中小企業支援を通じて、地元中小企業や地域に貢献する」ことです。
- 中期経営計画（2021年～2023年）では、コロナ禍の対応を重要課題とし、次の5年・10年後も見据えて「中小企業支援の深化」「業務変革（DX）」「経営管理」を計画の3本柱としております。
- 当社グループは、本計画を通じて、これまで以上にお取引先の業況改善や地域発展に貢献することで、当社グループの収益改善にもつなげる「共通価値の創造」を実現すべく取り組んでおります。



② 中小企業支援

- コロナ禍が収束する一方、急速な物価上昇等の影響により、地域経済への影響が中長期化するなか、中小企業支援の実効性向上と融資増強に向けて、営業戦略、本部・店舗再編など、支援体制の抜本的な改革を進めております。
- 当社グループの最重点エリアである仙台地区においては、既存取引先のグリップと新規開拓にさらに傾注。地元企業の資金ニーズに積極的かつ迅速に対応しております。
- ビジネスマッチングは、対面の商談会やイベントの再開に加えて、ECサイトでのビジネスマッチングなど手法を導入しております。

中小企業成長戦略の深化

きらやか銀行

預金・貸出業務を軸とする営業戦略

- ◆ 金融仲介機能のさらなる強化
- ◆ コロナ影響先に対する支援

コロナ影響先への抜本的な経営改善・事業再生支援

仙台銀行

スピード対応、オーダーメイド融資

- ◆ コンサルティング
- ◆ 事業再生支援

事業計画書策定支援、SDGs取組支援、DX化などの支援メニューを提供

仙台地区営業戦略

中小企業貸出平均残高

2023年度下期	4,921億円
対前年同月末比	増加 125億円
伸び率	2.6%

両子銀行協調、紹介案件への対応

新規開拓
メイン化営業の展開

ビジネスマッチング

宮城と山形をつなぐ

紹介実績	84件 (前年同期比△78件)
成約実績	12件 (前年同期比 +1件)

じもとまつり開催（山形市と連携）

電子地域通貨・企業版ふるさと納税

電子地域通貨	(山形県) 山形市、河北町 (宮城県) 大崎市
企業版ふるさと納税	利府町、多賀城市、登米市、 気仙沼市、塩竈市、栗原市、 南三陸町、富谷市

引続き、地公体との連携を拡大

③ 業務変革（DX）

- 当社グループは、コロナ禍や収束後の社会経済の変化、急速なDXの進展などの環境変化に応じた、スピード感ある業務変革を重要課題としております。
- 「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」を一体で進め、経営資源を効率的に再配分し、営業体制の増強につなげております。また、SBIグループの知見やノウハウも積極活用し、新たな金融サービスの提供や業務の再構築に取り組んでおります。

「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」を一体で推進

店舗戦略

【店舗網の見直し 2023年度】

計画的な店舗統合による合理化
中小企業支援の人員を創出

店舗再編(2023年度)

- きらやか銀行 8店舗
- 仙台銀行 1店舗

9店舗

店舗建替

- 仙台銀行 長町支店
(2024年4月、
新店舗の営業開始)

1店舗

業務効率化・DX

SBI共通ATMへ全台入替

きらやか銀行リテール業務を
SBI・仙台銀行連携で再構築
(個人ローン、ネット預金、
アパートローンなど)

バンキングアプリ利便性向上
(各種機能の改善、拡充)

各種業務のペーパーレス化

本部業務プロセスの再構築

人員戦略

「店舗戦略」「業務効率化・DX」
による創出人員を営業担当へ
順次再配置

SBIビッグデータを活用した人員
再配置の試算を開始

女性・若手職員の営業力を強化、
グループ内で育成ノウハウを共有

SBIグループ連携の積極活用

④ 経営管理

- 前年度における、きらやか銀行の大口取引先破たんに伴う赤字決算を契機に、子銀行の信用リスク管理への関与を強化し、社外取締役の知見を活用しながら、ガバナンス態勢の強化と実効性向上に取り組んでおります。
- 多様な人材が活躍できる職場環境を目指して、働き方改革や人材育成の取り組みを積極的に進めております。また、SBIグループへ当社グループの若手職員を派遣し、有価証券運用管理、DX・IT、M&A分野等において人事交流を拡大しております。

経営管理態勢の高度化

リスク管理態勢の強化

信用リスク管理、有価証券運用などHD関与を深め、グループ管理を強化。

社外取締役の知見活用

本部職員との面談、営業店訪問を実施。社外取締役の知見をさらに活用し、グループ重要課題の協議を拡充。

本部グループ制の導入

きらやか銀行は経営再建に向けて、本部グループ制を新たに導入。役割と責任の明確化、意思決定を迅速化。

新しい働き方・人材育成

女性・若手職員の活躍推進

女性リーダー育成研修開催。

子育て支援

育児休暇取得者の職場復帰を支援、WEBフォローアップセミナー開催。「産後パパ育休」創設。

ワーク・ライフ・バランス

適正な勤務時間管理を実施。

人権尊重の啓蒙

ハラスメント研修の実施。

DX人材育成

「ITパスポート」取得を支援。

ESG / SDGs

サステナビリティ

- ◆サステナブルファイナンスを強化（商工中金との連携・協力等）。
- ◆TCFD提言への賛同を表明。

次世代へ向けた人事交流

SBIグループ

- ◆SBIグループへ職員をトレーニー派遣（有価証券、DX・IT、M&A等）。
- ◆SBIマネープラザ共同運用を通じて、職員交流、ノウハウ吸収。

⑤ SBIグループとの主な連携状況

- 当社グループは、SBIグループとの連携を積極活用し、中小企業支援、業務変革、経営管理、人材育成の各分野で提携効果を発揮しております。
- 2023年12月、SBIグループによる追加出資19億円を受入れ、全額をきらやか銀行の増資に充当いたしました。
- 今後も、SBIグループと連携をさらに深め、当社グループの業績回復、営業基盤である宮城と山形の地域創生につなげてまいります。

SBIグループとの主な提携実績

法人戦略

- ◆無料ECサイト構築支援
- ◆電子稟議ワークフロー導入支援
- ◆事業性ローン団信取扱
- ◆DX関連オンラインセミナー開催
- ◆助成金、補助金申請支援
- ◆DXデータベース
- ◆トレーサビリティサービスの提供

地方自治体支援

- ◆地域通貨(プレミアム商品券)の電子化
- ◆企業版ふるさと納税

個人戦略

- ◆住宅ローン団信
- ◆がん保険
- ◆銀行代理業による住宅ローン
- ◆個人版確定拠出年金
- ◆投資信託商品
- ◆投資用不動産事業に係るアパートローン

ガバナンス

- ◆SBIより社外取締役1名が就任
※きらやか銀行取締役(非業務執行)を兼任
- ◆SBIよりオブザーバー2名が会議参加



コスト削減

- ◆SBI共通ATMへ全台入替
- ◆じもとHD役員賠償責任保険見直し
- ◆SBIビジネス・イノベーターのノウハウ活用

有価証券運用

- ◆子銀行有価証券ポートフォリオ再構築

SBIマネープラザ

- ◆共同店舗運営、資産運用提案の向上
- ◆相続に係るコンサルティング業務の強化

人材トレーニー派遣

- ◆SBIネオファイナンシャルサービスーズ(FinTech)
- ◆SBIアセットマネジメント(有価証券運用・管理)
- ◆SBI証券(M&A)
- ◆SBIホールディングス社長室ビッグデータ担当(AI・DX)

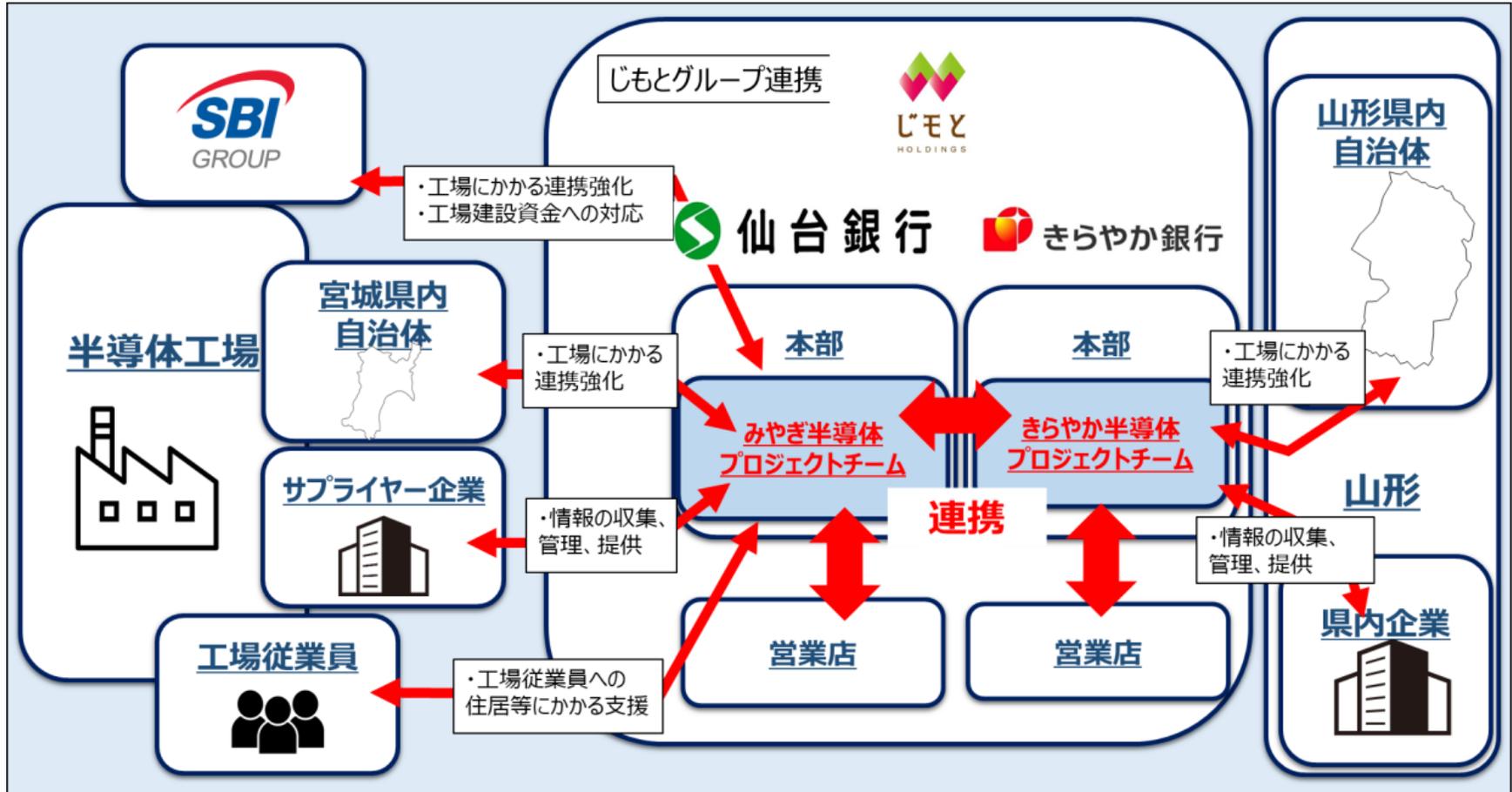
ファンド出資

- ◆SBIインベストメント組成ファンド出資

⑤ SBIグループとの主な連携状況（半導体プロジェクトチーム）

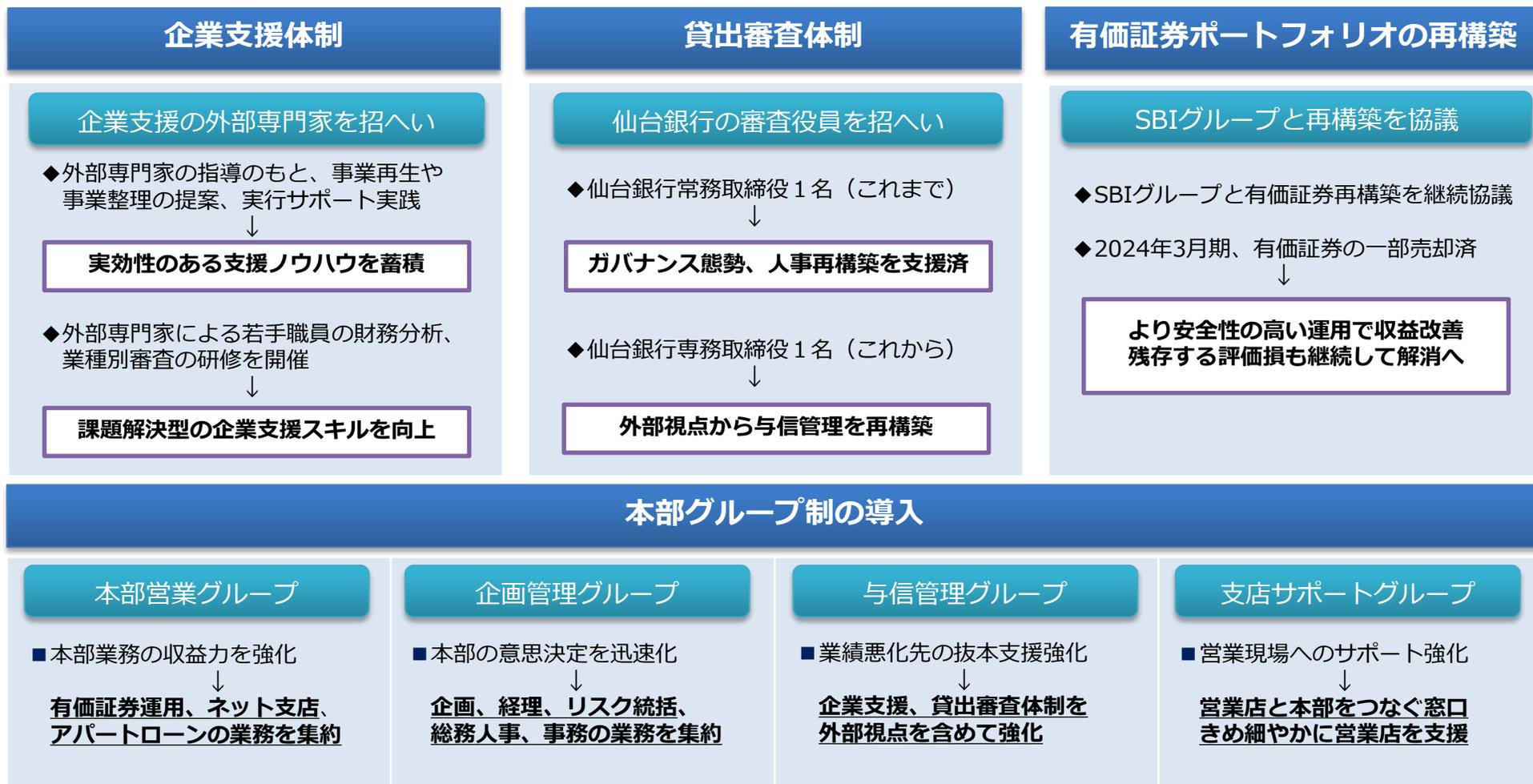
- SBIグループによる宮城県大衡村の第二仙台北部中核工業団地への半導体工場建設計画の公表を受け、じもとグループは、両行に「半導体プロジェクトチーム」を設置しました。
- 半導体工場には地方創生の観点から、各方面から高い期待と関心が寄せられています。SBIグループとの連携強化を通じて、各種自治体との連携、工場建設資金への対応、サプライヤー企業に係る情報収集と提供、工場従業員の住居支援などに積極的に対応してまいります。

半導体プロジェクトチーム イメージ図



⑥ 抜本的な経営改善施策（きらやか銀行）

- きらやか銀行は、2期連続の大幅な赤字決算を踏まえ、原因となった企業支援、貸出審査、有価証券運用について、外部専門人材を招くなど、外部支援を取り入れて再構築を進め、早期の黒字回復、公的資金返済に向けた剰余金の積上げに取り組んでまいります。
- 経営再建策を着実に実行するため、本部グループ制を導入しました。役割及び責任の明確化、意思決定の迅速化を通じて、本部収益力の向上、営業店サポート体制を強化してまいります。



3. じもとグループのサステナビリティ (サステナビリティ活動報告)

① サステナビリティ基本方針

- 当社グループは、2021年12月に「サステナビリティ基本方針」を制定、2022年4月に「サステナビリティ推進グループ」を設置しました。
- 持続可能な社会の実現に向けて、役員研修や支店長会議でグループ方針を周知し、中小企業支援と各主要課題に取り組んでおります。

サステナビリティ基本方針

じもとグループは、地域金融グループとして「宮城と山形をつなぎ、中小企業支援を通じて、地元中小企業や地域に貢献する」ことを経営理念としております。

この経営理念に基づく事業活動を通じて、取引先や地域社会の持続可能な発展に貢献し、併せて、当社グループの中長期的な企業価値の向上にもつなげていく「共通価値の創造」の実現を目指してまいります。

1. じもとグループは、宮城県と山形県の地元中小企業が直面する、地域経済の縮小、人口の減少・高齢化、後継者問題などの中長期的な課題への対応、業況の改善に取り組んでまいります。
2. じもとグループは、環境問題、職員の健康・労働環境の改善や公正・適切な処遇、人権尊重、東日本大震災の被災経験等を踏まえた危機管理などに取り組んでまいります。
3. じもとグループは、国連が提唱するSDGsの趣旨に賛同し、持続可能な地域社会の実現に向けて、外部連携も活用しながら、社会的な課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

中小企業支援を通じた取引先への取組み
(金融機関としてなすべきこと)

主要課題への取組み
(上場企業としてなすべきこと)

取引先や地域社会の持続可能な発展に貢献
当社グループの収益改善

「共通価値の創造」の実現へ

② サステナビリティ投融資方針

- 当社グループは、「サステナビリティ基本方針」に基づき、取引先や地域社会の持続可能な発展に貢献する投融資業務に取り組むにあたり、「サステナビリティ投融資方針」を制定しております。

サステナビリティ投融資方針

1. 積極的に取り組む企業や事業分野

取引先や地域社会の持続可能な発展にポジティブな影響をもたらす可能性の高い企業や事業活動に対して、継続的かつ積極的に投融資を行い、支援いたします。

- (1) SDGs・ESGの趣旨に沿った経営を志向する企業および事業活動
- (2) 地域企業の創業、イノベーション創出・成長・DX推進に取り組む企業および事業活動
- (3) 再生可能エネルギーや省エネルギーなど気候変動リスクの低減に取り組む企業および事業活動
- (4) 脱プラスチックや森林資源保全など環境問題の解決に取り組む企業および事業活動
- (5) 社会問題の解決に取り組む企業および事業活動

2. ネガティブな影響の低減・回避

取引先や地域社会の持続可能な発展に極めて大きいネガティブな影響をもたらす可能性の高い事業分野に対しては、原則、投融資を行いません。

- (1) 新設の石炭火力発電事業
- (2) 原生林や生態系の破壊など環境への甚大な影響が懸念される森林伐採事業など
- (3) 人権侵害や強制労働が懸念されるパーム油農園開発事業など
- (4) クラスター爆弾製造関連事業などの非人道的事業

3. サステナビリティ関連投融資の実行目標および実績

サステナビリティ関連投融資について、2030年度までに1,000億円の実行を目指します。

実行目標（2030年度末）	累計実績（2023年度）
1,000億円	429億円

③ 中小企業支援を通じたサステナビリティ

- 当社グループは、中小企業支援を通じて、地元中小企業や地域の中長期的な課題の解決に対応。取引先や地域社会の持続的な発展に貢献することで、当社グループの企業価値を向上させてまいります。

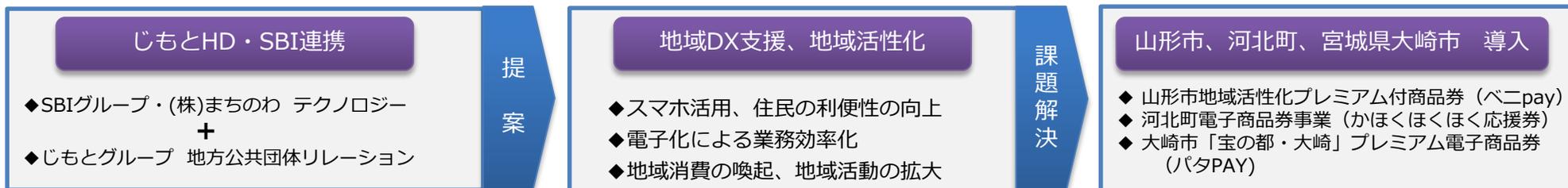
<中小企業や地域の中長期的な課題>



<課題解決への取組み>

コロナ禍の影響	地域経済の縮小	人口の減少・高齢化	後継者問題
<ul style="list-style-type: none"> ◆取引先への訪問、面談の徹底 ◆スピード重視の資金繰り支援 ◆事業再構築補助金の申請支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆県境を越えた新たな商機創出 ◆地公体へ電子地域通貨支援 ◆サステナビリティ関連投融资 	<ul style="list-style-type: none"> ◆中小企業のデジタル化支援 ◆企業主導型保育施設の設置 ◆外国人技能実習生の受入れ支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆次世代の地域経営者の育成 ◆経営人材の紹介、婚活支援 ◆事業承継・M&A支援

<地公体へ電子通貨支援>



④ 主要課題への取組み

- 当社グループは、上場企業、地域企業として取り組むべき、サステナビリティの5つの課題を設定して取り組んでおります。
- 従業員や取引先など、多様なステークホルダーとの良好な関係を構築することを通じて、持続可能な社会の実現を目指しております。

主要課題 1 気候変動などの地球環境問題

項目	取組み状況
電力消費量削減	【削減実績】 △552千kwh ※2023年3月末対比
照明設備のLED化	【実施率】 68.6% (86カ店のうち59カ店で実施) ※2024年3月末現在
CO2排出量の削減 (Scope1,2合算)	【削減率】 △35.0% (2030年度削減目標 : 2013年度対比△46.0%)
気候変動リスクへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ TCFD提言への賛同 ・ 外部説明会の受講等による情報収集

主要課題 2 人権の尊重

項目	取組み状況
通報相談窓口等の体制整備	内部通報窓口、ハラスメントに係る相談窓口を設置。通報先に外部弁護士を追加。ハラスメント事案の発生防止、早期発見に取り組んでおります。
研修を通じた職員への啓蒙	職場でのハラスメント予防、コンプライアンスの各種研修を実施しております。 【きらやか銀行】 コンプライアンス研修6回/管理職対象研修1回/職場研修3回 【仙台銀行】 管理職対象研修1回/次長課長補佐対象研修1回/職場研修6回 ※期間 : 2023年4月~2024年3月

④ 主要課題への取組み

主要課題 3 従業員の健康・労働環境への配慮や公正・適切な処遇

項目	取組み状況
健康・労働環境	<ul style="list-style-type: none"> 時間外労働時間の削減、勤務間インターバル制度、有給休暇の取得推進など、ワークライフバランスの実現に向けて勤務時間の適正な運用管理を実施しております。 健康診断とストレスチェック（各年1回）、産業医・保健師等の相談窓口により、職員の心身の健康管理を実施しております。
公正・適切な処遇	<ul style="list-style-type: none"> 「人材育成方針」に基づき人材育成に取り組むと共に、職員のキャリア形成を後押しするため「人材育成キャリアマップ」を策定しております。 職員毎の目標管理、能力考課を柱とした人事考課制度を運用しております。 併せて、職員の自発的な能力開発に向けたサポート体制を整備しております。

主要課題 4 取引先との公正・適正な取引

項目	取組み状況
規程や担当部署等の体制整備	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスマニュアル、利益相反管理方針等の制定（守秘義務、説明義務・適合性の原則、苦情・相談・トラブルへの対応、善管注意義務と顧客財産保護、顧客との癒着排除等） コンプライアンス委員会でのルール遵守状況チェック、問題事案への対応 苦情受付窓口の設置
研修を通じた職員への啓蒙	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスプログラム、コンプライアンス研修の実施

主要課題 5 自然災害等への危機管理

項目	取組み状況
事業継続体制	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続計画（地震発生、大規模災害、感染症発生時）を策定し、定期的に災害訓練を実施しています（年2回）。 営業店への自家発電装置、止水板の設置など、災害に強い設備を整備しています。
災害発生時の業務運営	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の銀行取引の特例措置への迅速な対応（現金払出し、小切手・手形決済、喪失通帳の再発行、各種手数料の減免等）

⑤ 人事戦略、投資

人材育成の取組み

- 当社グループは、銀行業務の拡大や働き方改革が進展する中、様々な選択肢をもった人事制度を構築し、性別や採用経緯等に関わりなく、多様な人材が活躍し、能力を発揮できるよう人材育成に取り組んでおります。
- 研修受講やSBIグループとの人事交流については、公募制を導入するなど、職員に対して均等な教育機会を提供しております。

人材育成	取組み状況
能力開発	階層別研修、行内FPスクール、本業支援実践力行内認定資格制度（きらやか銀行）
女性の活躍促進	女性渉外の営業力強化・早期戦力化に向けた研修を両行で共催
外部連携	SBIグループとの人事交流の実施（有価証券運用、DX、M&A、ビッグデータ・AIヘトレーニー派遣）

	管理職に占める女性職員割合 (2024年3月31日現在)	正職員に占める 女性職員割合	新規採用職員に占める 女性職員割合
きらやか銀行	10.1 % (12名/119名)	42.9% (304名/708名)	53.3% (8名/15名)
仙台銀行	16.1 % (19名/118名)	47.3% (335名/708名)	64.0% (16名/25名)

目標：15%以上（2026年3月末）

<参考> 当社グループの女性役員は2名（うち社外取締役1名）となっております。
 ・じもとホールディングス社外取締役監査等委員：1名 ・仙台銀行取締役監査等委員：1名

⑤ 人事戦略、投資

社内環境整備の取組み

- 当社グループは、少子高齢化、コロナ禍による社会経済の急変、DXの進展、新業務の拡大など環境変化が進展する中、スピード感をもって業務変革に取り組んでおります。
- これらの環境変化に対応するためには、性別等に関わりなく、働き甲斐と働きやすさ、自己実現ができる環境を整備することが必要であり、当社グループは、「育児や介護との両立支援」や「新たな働き方・人材育成」の環境整備を進めております。

育児・介護の支援	取組み状況
休業制度等	育児休業、介護休業、短時間勤務の支援制度を完備 不妊治療及びがん治療に使用できる「ヘルスサポート休業制度」の導入
社会全体での子育て支援	育児休業の取得を促進（男性職員の取得も推奨）
育児休業者へのフォロー	フォローアップセミナーの開催、職場復帰事前面談・研修の開催
職場への復帰支援	企業主導型保育施設の設置、企業主導型保育事業者との保育園利用提携
勤務エリア	居住地域から通勤可能な範囲での転勤に限定できる勤務エリア選択制度を運用
多様な人材の活躍支援	取組み状況
正社員登用制度	非正規職員から正職員への登用制度を運用
ベテラン職員の活躍支援	定年後もシニア職員として勤務が可能な制度を運用
専門人材の育成	専門性の高い業務に従事するSPコースと営業職に特化するFCコースを設定
若手職員活躍支援	指導員制度による新入行員指導、企業訪問研修「チャレンジダイバーシティ制度」 公募制の外部出向を通じた育成支援、「キャリア形成サポート面談」による若手のキャリア形成支援
キャリア・リターン制度	結婚、出産、育児、介護、転職等で退職した元職員の再雇用制度を運用
旧姓の継続使用	職員の婚姻等による改姓後も旧姓をビジネスネームとして使用可能に

⑤ 人事戦略、投資

ワーク・ライフ・バランス関連指標

	きらやか銀行	仙台銀行
年次有給休暇取得率（2023年度）	59.4%	61.8%
平均残業時間（2023年度／月間）	10.2時間	9.3時間
平均勤続年数（2024年3月末現在）	男性：21.6年 女性：17.8年	男性：16.6年 女性：10.6年
男性の育児休業取得率（2023年度）※	112.5%	106.7%

※男性の育児休業取得率＝年度内に育児休業等を取得した男性労働者の数÷年度内に配偶者が出産した男性労働者の数

知的財産への投資

	主な実施状況
経営支援	<ul style="list-style-type: none">きらやかマネジメントスクール（山形大学等と連携、次世代の地域経営者育成）／累計受講者191名（1～6期）仙台銀行ビジネスクラブ次世代経営塾／累計受講者数65名（1～4期）
外部連携	<ul style="list-style-type: none">SBIグループとの連携によるDX等の金融テクノロジーの導入、吸収

⑤ 人事戦略、投資

主な表彰・認定実績

きらやか銀行

やまがた子育て・介護応援いきいき企業「優秀（ダイヤモンド）企業」
やまがたスマイル企業「ダイヤモンドスマイル企業」
山形県ワーク・ライフ・バランス優良企業知事表彰（2015年度）
均等・両立推進企業部門山形労働局奨励賞（2015年度）
山形県障害者雇用優良事業所表彰
次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業「プラチナくるみん認定」
イクボス宣言、やまがたイクボス同盟加盟

仙台銀行

宮城県 女性のチカラを活かす企業認証制度「ゴールド認証企業」
宮城県いきいき男女にこここ子育て応援企業 最優秀企業
宮城県・宮城労働局 魅力ある職場づくりモデル企業表彰
次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業「プラチナくるみん認定」
次世代育成支援対策推進法に基づく不妊治療と仕事との両立サポート企業「プラチナくるみんプラス」認定
イクボス宣言、イクボス企業同盟・みやぎイクボス同盟加盟
みやぎ働き方改革実践企業認証
厚生労働大臣女性活躍推進法「えるぼし認定」
仙台市障害者雇用貢献事業者表彰
ベビーファースト運動参画

⑥ トピックス（きらやか銀行）

金融経済教育への取組み

- ◆SMBCコンシューマーファイナンス株式会社との協働により、山形県内の高校生を中心に金融経済教育セミナーを開催しております。2023年11月より開始し、11校に対し実施いたしました。
- ◆今後も未来を担う学生や地域の金融リテラシー向上に向けた取組みを通じて、地域社会の発展に貢献してまいります。



きらやか産業賞・ベンチャービジネス奨励賞の贈呈

- ◆きらやか産業賞は、技術や経営の革新・国際化・教育訓練の面で優れた実績を上げている県内の中小企業と団体・個人を表彰しております（2023年度で35回目）。
- ◆ベンチャー・ビジネス奨励賞は特に将来性があり、新技術・新製品などの研究開発を行う中小企業と関連団体・研究成果による起業を予定している個人・団体を顕彰しております（2023年度で28回目）。



ダイヤモンドスマイル企業の認定

- ◆山形県より、「ワーク・ライフ・バランス」「女性活躍推進」などに積極的に取り組む企業を対象として県が認定する、やまがたスマイル企業認定制度において、最高ランクである「ダイヤモンドスマイル企業」に認定されました。
- ◆今後もワーク・ライフ・バランスの充実を図り、全職員がいきいきと働ける企業を目指し積極的に活動を続けてまいります。



一般財団法人きらやか銀行教育福祉振興基金による寄贈品の贈呈

- ◆一般財団法人きらやか銀行教育福祉振興基金（代表理事 川越浩司 きらやか銀行取締役頭取）では、山形県交通安全協会の安全かつ効果的な活動を支援するために、当協会に対してボランティアベスト（60着）を贈呈いたしました。
- ◆1974年の設立以来、山形県内の保育施設や学校、社会福祉法人等を対象に、地域貢献活動を実施しており、当財団は今後も活動を継続して行い、地域社会に貢献してまいります。



⑥ トピックス（仙台銀行）

宮城県内“初”「プラチナくるみんプラス」の認定取得

- ◆宮城労働局より県内で初めて、「プラチナくるみんプラス」の認定を受けました。
- ◆2019年に「プラチナくるみん」認定を取得しており、今般、さらに不妊治療と仕事の両立支援の取組みが認められ、認定取得となりました。
- ◆今後も職員一人ひとりが働き甲斐と働きやすさを両立し、仕事を通して自己実現と自己成長を後押しする企業を目指してまいります。



仙台銀行ホールイズミティ21 各種コンサートへの協賛

- ◆当行がネーミングライツを取得している仙台銀行ホールイズミティ21が大規模改修に伴う休館のため、地域の皆さまのお近くへコンサートをお届けする出前コンサート「イズミノオトドケコンサート」が開催されました。
- ◆今後も仙台市と連携を図りながら、地域の皆さまへの文化活動の支援を通じて、地域活性化に貢献してまいります。



仙台市と連携した紙専用リサイクルボックスの設置

- ◆仙台銀行荒井支店駐車場内に、仙台市民の方がご利用いただける紙専用リサイクルボックスを設置いたしました。
- ◆リサイクルに注力している仙台市の取組みに共感し、設置したもので本市と金融機関のリサイクルに係る提携は、本件が初となります。
- ◆今後もじもとグループのサステナビリティ方針に基づき、環境に配慮した取組みを行ってまいります。



マネースクールの開催

- ◆2023年10月、小学校高学年の親子を対象とした「仙台銀行秋のマネースクール」を仙台銀行本店で開催いたしました。仙台銀行オリジナルの教材を使った、銀行の役割やお金の基礎知識を学ぶ講座のほか、タブレット端末を使った疑似投資体験など、親子で楽しく学ぶプログラムを実施いたしました。
- ◆今後も地域に根ざした金融機関として、未来を担う子どもたちの金融リテラシー向上のため、金融経済教育を提供してまいります。



本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比で異なる可能性があることにご留意ください。

《当資料に関するお問い合わせ先》

株式会社 じもとホールディングス
総合企画部

TEL: 022-722-0011 (代表)
<https://www.jimoto-hd.co.jp>